



2017(平成29)年4月号

はなまつり

新年度を迎えました。今年の桜の開花は4月1日と予想されましたので、今号が届いた頃には桜が満開になっていることでしょう。4月からは、長女が幼稚園を卒園し、いよいよ小学校に入学することになります。我が子ながら、成長するのは早いものだと感じます。

さて、4月8日はお釈迦さまの誕生日であり、はなまつりとして宗派を超えて各寺院でお祝いの行事をします。正式には「灌仏会(かんぶつえ)」と言い、お釈迦さまのお像に甘茶をかけます。これは、お釈迦さまがご誕生された時、天から9匹の龍が現れ「甘露の雨を降り注いだ」という伝説に基づいているのです。また、ルンビニー園という花園でお生まれになったので、花を散りばめた御堂(花御堂)にお釈迦さまのお像をご安置します。そして、子どもの健やかな成長を願い、稚児行列を行い盛大にお祝いするお寺もあります。

お釈迦さまは、この世で悟りを開き、その教えを広められました。お釈迦さまが亡くなられた後、残されたお弟子方がお釈迦さまのご説法を經典にし、インドから中国、そして日本へと伝来して今日へと至ります。

經典の中には、お釈迦さまの前世の物語もあります。これを「ジャータカ」と言い、色々な話がありますが、今号ではシビ王の物語をご紹介します。

昔々、インドにシビ王という慈悲深い王がいました。ある時、シビ王の元に一羽の鳩が舞い込んできて、「鷹に追われています。私のいのちを助けてください」とシビ王に頼みました。

すると直ぐに鷹が飛んで来て「その鳩は私の獲物です。鳩を食べないと私は生きていきません。その鳩を私に返して、私のいのちを救って下さい」とシビ王に頼みました。シビ王は鷹に向かって、森の中に行つて鳥の死骸を食べれば良いと勧めますが、鷹は死んだ鳥の肉では、いのちが保てないので、その鳩を与えて下さいと頼むのです。鳩を渡せば鳩が死ぬ。鳩を渡さなければ鷹が死ぬ。

シビ王は鷹に向かって「わかった。私の肉を与えよう」と返事をしました。鷹は「その鳩と同じだけの肉を下さい」と言うので、シビ王は自らのもの肉をえぐり取り鳩と一緒に天秤に乗せました。しかし、天秤は鳩の方が重たままなのでシビ王は次に片足全部を切り取り天秤に乗せました。それでも天秤は動きません。

シビ王は「はっ！」と気づき、自らが天秤に乗りました。すると秤はピタッと真ん中で止まり、鳩とシビ王の重さが釣り合いました。シビ王は自らの全てを鷹に与え、鳩と鷹のふたつのいのちを救いました。

慈悲深いシビ王こそ、お釈迦さまの前世の姿であり、この物語で大切なことは、「いのち」の重さが変わりはないということ。人間は、他のいのちを軽んじる傾向があります。また同じ人間同士であっても自分の都合によつて、自分勝手にいのちの軽重を決めます。この物語を通じ、いのちをいただくことの感謝を忘れないようにしたいものです。

仏事あれこれ

仏事のQ&A

Q. お勤めは僧侶だけがする？

A. お勤めはご一緒に！

月忌参りなどで門徒さんの家を訪れてお勤めする時に、しばしば寂しい思いをすることがあります。それは、せつかくお参りしても、家の人が誰もそばにおらず、一人でお勤めしている時です。家の人はと言うと、別の部屋で何やら用事をしていたり、お勤めが終わってから出すお茶の用意をしていたり、といった具合です。

命日や速夜（命日の前日）にお勤めするのは、亡き人を偲びつつ、それをご縁に仏法を聞き味わうためで、「私」を抜きにしてはあり得ません。僧侶がお参りさせていただくのも、そうした家族の方がたに仏縁を結んでいただくためであって、けっして「亡き人にお経を聞かせてあげるため」ではありません。

ですから、お茶の心配をしていたくことは有り難いのですが、それよりも座って、一緒に声を出してお勤めしていただきたいのです。お寺の法要やお勤めすると気持ちがいいものです。ぜひ実行してみてください。

さらに、僧侶がいなくても、日ごろからお経に親しみ、お勤めができるようになってくたさると有り難いです。お経は確かに難しい漢字が多く、

意味を理解するのは容易ではな
いでしょうが、
繰り返して上げて
いると自然にス
ラスラ言えるよ
うになり、経文
の言葉にも興味
がわいてくるものです。



新・仏事のイロハ』より抜粋

お知らせ

「奉讃会」入会のご案内

当会館では、会員を随時募集しております。当会は平成7年に発会して以来、法要・法座への参拝や清掃などのお手伝いをはじめ、研修旅行・親睦会など幅広く活動しております。

また、築地本願寺や京都への参拝などご一緒にませんか。お寺にご縁のある方、興味のある方、どなたでも結構です。是非ご入会ください。
年会費3千円（一家族あたり）

平成29年の年回表 （ご法要のお申し込みをお忘れなく）

平成29年 年回表	
1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
23回忌	平成7年
25回忌	平成5年
27回忌	平成3年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年

3月行事の様子

★東日本大震災七回忌追悼法要 3月11日(土) 14時46分～

6年前の震災によって大切な方がたを亡くされたことを偲び、防災に対する意識を高める法要となりました。17名の方が参拝されました。



法要「仏説阿弥陀経」



★春季彼岸会・奉讃会永代経法要 3月20日(月) 13時～15時

穏やかな気候のもと、46名の皆さまにお参りいただきました。満堂の中、法要をお勤めし、ご講師・山崎龍明師よりご法話をいただきました。

法要「正信念仏偈作法」

山崎龍明師

3月の誕生日の皆さま



★第4回キッズサンガ子ども会 3月25日(土) 10時～12時

春休み中ということもあり、参加者は3名と少し寂しい人数でした。仏讃の後、キャンドル作り・宝探しなどをして遊びました。

仏さまのお話

キャンドル完成！

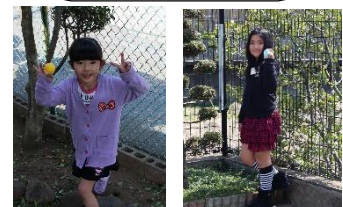
宝探し



キャンドル作り



お宝発見！



東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

▶ 4月の行事予定

親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

4月16日(日) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

はなまつい

4月16日(日) 午前10時～
午後1時～

ご講師 横内 教順師
(東京都 称名寺)

お釈迦さまのお誕生日をお祝いする行事です。
午前の部はお子さま対象、午後の部は大人対象
となります。ご家族お揃いでお参りください。

▶ 5月の行事予定

常例法座

5月14日(日) 午後1時～

ご講師 友岡 栄玄師
(東京都 江戸川布教所妙蓮寺)

どうぞ、お気軽にお参りください。

おみがき・境内清掃

5月21日(日) 午前10時～

6月に予定される降誕会に向けて、
本堂の仏具をきれいに磨き、境内の清掃を
行います。ご協力よろしくお願ひいたします。

東久留米会館会報 「ともしび」 第252号
発行日 2017年4月1日
発行者 安邊 泰教
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30
電話 042-474-6787

編集後記

冒頭にも掲載しましたが、長女が小学生になります。昔のランドセルは赤か黒でしたが、今はいろんな色のランドセルがあります。我が家の長女が選んだのは当然(?)ピンクのランドセルです。(安)

お晨朝お休みのお知らせ

4月2日(日)・22日(土)・
23日(日)

3日間お休みさせていただきます。

今月のお仏飯米のご進納

奥川 眞二様 神谷 正弘様
石田 優様

ありがとうございました。